

主要科目の特長・科目ごとの目標等

○大学院人文科学研究科

・臨床心理学専攻

「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」

公認心理師・臨床心理士になる上で必要となる専門職としての基礎知識及び基本的態度を身につけることを目的とする。臨床心理学特論Ⅰでは、臨床心理学の歴史、法律、理論、研究、実践領域、実践方法など、専門的な学習を行ううえで前提となる知識を学ぶ。また、プレゼンテーションを通して、実践の基盤となる適切な情報集約の仕方や聞き手のことを踏まえたコミュニケーションの在り方についても修得する。

臨床心理学特論Ⅱでは、心理臨床活動の実践において新たな知見をアップデートする際に必要なクリティカル・リーディングのスキルを身につけるとともに、心理面接の導入期からアセスメント、心理療法に至るまでの過程で遭遇しやすい問題について学んでいく。

「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ）・臨床心理面接特論Ⅱ」

臨床心理面接の基本的な技能と態度を学習することを目的とする。臨床心理面接特論Ⅰでは、クライアントを孤立した個人として捉えるのではなく様々な文脈の中に位置づく存在として捉え、クライアントと協働する臨床心理面接がどのように達成できるかについて学んでいく。また、多文化的な視点や学習者自身の省察も一貫して取り上げていく。

臨床心理面接特論Ⅱは面接の基礎として、初回面接の具体的な手順、また、倫理的問題など初回面接に関わる諸問題を文献講読によって学び、その後ロールプレイングによって実際に初回面接を模擬的に施行することを通して、初回面接の力量と見識を身につける。

「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・臨床心理査定演習Ⅱ」

臨床心理査定（アセスメント）は、人間の心理的特性を幅広く測定・評価するという点で、単なる病理診断とは異なる。臨床心理査定演習Ⅰでは、心理的アセスメントの意義と基本的視点を学び、さらに心理的アセスメントとして用いられることの多い心理検査の中から、ウェクスラー式の知能検査を中心に理論と方法を修得する。また、心理に関する相談、助言、指導等への応用について学ぶ。

臨床心理査定演習Ⅱでは、心理査定の実施とその解釈、所見のまとめ方を学ぶ。ロールシャッハ・テストを中心に、実施の方法、スコアリング、量的分析、継起分析を学ぶ。また、ロールシャッハ・テストの事例を通じて、病理の現われ方を学ぶ。さらにテスト・バッテリーを組むことによって、パーソナリティを多層的に捉えることについて学ぶ。また、得られた情報をクライアントにどのようにフィードバックするか、その実際を修得する。

「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」

ケースを担当する準備として行う臨床実習である。臨床心理基礎実習Ⅰでは、主にロールプレイ実

習を通して、カウンセリングの基本的態度やカウンセリングによる人間理解のあり方、カウンセリングの基礎的スキルを身につけることをめざす。

臨床心理基礎実習Ⅱでは、他大学院と共同で試行カウンセリングを実施し、より実践に近い設定でカウンセリングの基礎的スキルや援助者としてのあり方を学ぶ。

「臨床心理実習ⅠA・B・C・D」

学外実習の科目である。ⅠAは教育分野、ⅠBは保健医療分野、ⅠCは福祉分野、ⅠDは駒澤学園心理相談センターで継続的に実習を行う。実習体験に基づいて個人スーパーヴィジョンを受け、また、少人数での事例検討を行うことによって、現場で活躍する力を修得していく。

「臨床心理実習ⅡA・B・C・D」

本授業では、学内・学外での実習事例を報告し、グループ形式でのスーパーヴィジョンをおこなう。心理相談センターの研修相談員(大学院修士課程修了者)も参加し、ケースの見方や関わり方について生きた臨床事例をもとに、心理臨床に携わる者としての見識を身につけることが目的である。